

# ハワイ島旅行記

Aloha aina

国旗研究会用レポート

1994.8-2001.8

丸山 秀一

仮説実験授業研究会

1994年7月ハワイ島へ一週間の新婚旅行へと出掛けました。  
その旅行記です。息抜きにどうぞ。

(質問)

さて僕にとっては、初めての海外旅行。出入国審査・税関  
検査が一番厳しかったのは、次のどのときだったでしょうか。

予想

- ア 日本出国
- イ アメリカ入国
- ウ アメリカ出国
- エ 日本入国

これでいいの？

どちらも出国に関してはパスポートを見るだけです。驚いたのは、手荷物検査が全くないということ。国内線の場合は、ビデオなどを持って搭乗するときも、ビデオが本当に作動する物かどうか調べられますが、そういう点検も一切受けませんでした。持参したパソコンも同様にノーチェック。

さて「斎藤寝具店でーす。(SIGHTSEEING 10DAYS)」などと言わなければならないアメリカでの入国審査と税関検査。「前の人のマネをすればよい」と思っていたので気楽に行ったら、これがすごい。全くのノーチェック。入国審査ではパスポートにスタンプを押してもらっただけで、あとはフリーパス。「こんなんでいいのか」と思ってキョトンとしていると、係官が「行け行け」と手振りで指示。結局なんの検査もありませんでした。

また、半券とスーツケースの照合もしないという手抜きぶり。これでは誰のスーツケースを持っていっても分かりません。ホノルルからハワイ島に渡ったときも、スーツケースの照合はなしでした。ところが、ハワイ島からホノルルに戻ってきたときは、驚いたことに、係官がいて「スーツケースの半券を見せろ」というではありませんか。結局スーツケースの照合を行ったのはここだけでした。日本入国のときも照合はありませんでした。適当だなあ。

さてアメリカ出国。これがまた何もすることがない。パスポートも見せない。航空券を提示するだけ。なんというイメージさ。

そして日本入国。持ち込み禁止の砂を多量に隠し持ってい

たため少し緊張。「日本の役人はうるさいだろうな」と思っていたら、これまた適当でした。入国審査で、「日本人帰国」と「外国人入国」のゲートがあるのですが、空いているので「外国人入国」のゲートに並んだのですが、これでもOK。そして税関検査も、「申告する物はありませんね」「はい」でおしまい。ここでも一切の検査は受けませんでした。

ハワイ以外も海外旅行ってこんなに簡単なの？

#### [ 質問 ]

飛行機のなかでの気圧を測ってみました。国内線では（札幌～東京 離陸から2～3分後に約800ヘクトパスカルで一定となりました。水平飛行に移ったのです。この気圧を高度に換算すると、約2100mぐらいの高さということになります。もちろんジェット機がそんなに低いところを飛ぶはずがありません。実際は1万mぐらいのところを飛んでいるのですから、機内は加圧されているのです。

さて国際線（札幌～ハワイ）の機内で水平飛行をしているときの気圧はどうでしょうか。

#### 予想

- ア 国内線とほぼ同じ（10h p ぐらいの差）
- イ 国内線よりも気圧は低くなる
- ウ 国内線よりも気圧は高くなる

## 加圧

国際線はかなり長い距離を飛ぶから燃料節約のためにも、国内線よりも高いところを飛ぶような気がするのですが、僕の予想は「イ」でした。さて実際は？

気圧は19分後から約900hpで安定しました。このときの高度は機長のアナウンスによると「3,500 フィート（約1,100m）」でした。

国内線では飛行中は地上よりも200hpも気圧が低かったのに、国際線では、100hpしか気圧が下がりませんでした。気圧があまり下がらないため、着陸時に耳が痛くなるのが全然なく（国内線ではいつも苦しめられる）快適な空の旅でした。

実は、機内の気圧をあまり加圧すると、外圧との差が大きくなって、機体が危険な状態になるそうなのです。特に飛行時間が短い国内便は、加圧と減圧を繰り返すことにより機体の疲労が増えるため、あまり加圧しないようにしているのだそうです。

ホノルルからハワイ島（余談だが、ハワイでハワイ島のことをいうときにHAWAII ISLANDと言っても通じなくて困った。全部がHAWAII ISLANDSハワイ諸島だから。BIG ISLANDというのを簡単に通じた。BIG ISLANDはハワイ島のニックネーム。）へ向かう飛行機に乗ったときは、さらに気圧の減りは少なく、970hpまでしか下がらず、快適そのものでした。

[ 質問 ]

ハワイには、日本では全く普通に使われているある文具がどこへいっても全く売っていませんでした。さて、その文具とは何でしょうか。

予想

- ア シャープペンシル
- イ カッターナイフ
- ウ ホッチキス
- エ スティック糊

なぜかない

これには僕は大変驚いたのです。ハワイには大きなスーパーマーケットが結構あります。またホームセンター（「HARDWARE」って看板が出ている）もたくさんありました。セブンイレブンもあります。とにかく日本と全く同じで便利でした。ところがそのどこを探しても売っていないものがある。それがカッターナイフなのです。

ハワイにいる間中、店という店を全部探したのですが、ついに発見することはできませんでした。そして、カッターの代わりになるものもほとんどみつからない。見つけたものといえば、「段ボールカッター」という剃刀の刃を柄に付けたもの（子どもの頃に日本でも売っていたもの）と「デザインカッター」ならぬ、日本でスクラップブックの切り抜きなどに使う刃が一枚だけのもの。いったいアメリカ人は、ものを切るときに何を使っているのでしょうか？

日本でもよく見られる「スイス・アーミー・ナイフ」は売っていたけど、それ以外のナイフを売っているのは見ませんでした。うーん不思議だ。包丁は売っていたけど。もしかしたら、法律で規制されているのでしょうか。

(質問)

ハワイには「ポイ捨て禁止条例」があるためか、道路や海岸がとてもきれいです。(本州の道路の汚さを思い出すなあ。)

これにも僕は大変驚いたのです。だって、道路や海岸に空き缶一つ落ちていないのですよ。ビーチには、みんな飲み物なんかもっていつているけど、みなさんちゃんと持ち帰っているのでしょう。とにかく日本のビーチとはえらい違いです。

さて、ではこの「ポイ捨て禁止条例 (Litter control)」に違反するとどうなる？

予想

- ア 逮捕されて裁判にかけられる
- イ ゴミ拾いをさせられる
- ウ 罰金
- エ そのほか

ポイ捨てをしないのはなぜ

答えは、「罰金 500 ドル (5 万円)」です。あちらこちらにその看板がありました。でも、人口密度が低いので、どこへ行ってもほとんど無人の道路やビーチだから、警察官はおるか誰も見ていないのに、みんなその規則を守っているのか、ゴミ一つ落ちていないのです。アメリカ人は正義感が強いのか？良識があるのか？とにもかくにも、日本のあまりにも良識のない人々と汚い道路やビーチを思い出しては情けなくなっていました。

[ 質問 ]

欧米諸国では喫煙者が減っていると聞いています。そこでハワイではどうなのでしょう。もちろん道路やビーチにはタバコの吸い殻などは全く落ちていません。

ハワイでは喫煙者の数は日本と比べて少ないのでしょうか。

予想

- ア 日本と同じぐらい
- イ 日本より少ない
- ウ ほとんどいない



タバコは有害です？！

一週間のハワイ旅行の間、喫煙している人を見たのはたったの一度、しかもたった一人だけでした。もちろん、日本人はいたところで喫煙していましたが・・・。

ハワイでは、まず灰皿というものを見ることはできません。レストランでもベンチでも、どこでも「人が集まる場所」では、法律によって喫煙が禁止されているのです。あちこちで「喫煙は法律違反」という掲示を見ました。僕が見た喫煙者は、ショッピングセンターの中で吸っていたので、法律違反です。

それに日本ではよく見かける、タバコの広告もひとつも見ることができませんでした。タバコやお酒の広告も禁止されているのです。

それにしても、本当にだれもタバコを吸っていないのです。ホノルル空港の喫煙所に集まっているのは、日本人だけといってもいいぐらいです。紫煙を見ると「そこに日本人がいる」と考えても間違いなくぐらいです。だからとても異様にみえて、喫煙している日本人の横を現地の人たちが、はっきりと嫌な顔をして通り過ぎて行くのも当然のように思えました。

そして、もちろん、どこにいてもタバコの吸殻が落ちているのを見ることは全くできませんでした。

[ 質問 ]

それではタバコは売っているのでしょうか。自動販売機はどうでしょう。タバコの販売は日本と比べてどうでしょうか。

予想

- ア 日本と同じであちこちで売っている。自販機もある。
- イ あちこちで売っているが自販機はない
- ウ ほとんど売っていない
- エ 自販機だけで売っている

### どこでも買えるタバコ

これがおもしろいのですが、タバコはほとんどどの店にもおいてありました。つまり喫煙者はかなりいるようなのです。みなさん自宅で吸っているのでしょうか。しかし、タバコの自動販売機は一台もありませんでした。

### [ 質問 ]

ハワイには、日本の代表的なゴミである「吸いがら」と「空き缶」がありません。では、缶ジュースや缶ビールは売られていないのでしょうか。

### 予想

- ア 缶ジュースはなく、みんな瓶
- イ ふつうに売られていて自販機もある
- ウ ふつうに売られているが自販機はない

どこでも買える缶ジュース

缶ジュースも、どの店でも売っています。しかし、自動販売機を見たことはありません。そもそもジュースにしろタバコにしろ、自動販売機自体が全くないのです。自動販売機を1台だけ見ましたが、それは昔の日本にあったような、「お金を入れて、瓶を取り出す」タイプのものでした。

ゴミにしろ、こちらの人たちのマナーは大変立派です。どこでもきちんと列を作って順番を待ちます。そしてどんなに待たされても文句一つ言いません。僕は、つい日本のつもりで行動してしまって、何度か非難するような顔つきをされてしまいました。

また、荷物がちょっとぶつかったりするような、ちょっとしたことでも「Excuse me, sir!」と体格のいい向こうの人に大きな声で言われるので、最初は恐ろしかったです。

[質問]

ハワイのクルマのうち日本車の割合はどれくらいでしょう？

予想

ア 50%くらい

イ 70%くらい

ウ 30%くらい

## 日本車

ハワイに行って驚くのは、まず日本車の多さです。7～8割は日本車でアメリカ車を探す方が難しいほどです。僕はアメリカ車を借りましたが、運転しているとまわりが日本車ばかりで日本にいるような錯覚に襲われました。トヨタ、日産、三菱などの販売店もありました。

さらに驚くのは、日本ではもう見ることのできない古いクルマがたくさん現役で走っていたことです。これは車検制度が日本と違うことにもよるのですが、日本車の性能の良さを感じさせてくれました。

## [ 質問 ]

このようにハワイにはたくさんの日本車がありますが、日本ではたくさん見るのに、ハワイでは一度も見かけなかった車種がいくつかありました。予想してみてください。

## 予想

ミニカ、カローラ、クラウン、スカイライン、ローレル、パジェロ、サニー

好みの違い？

ハワイで全く見なかった日本車は、まず軽自動車です。軽自動車は日本の税制度により作られたクルマですから日本独特で当然です。またクラウンやセドリック、ローレル、マークIIなども日本独特のクルマらしく一台もみませんでした。

それ以外の車は、ほとんど全車種を見ましたが、日本ではたくさん走っているスポーツカーでハワイでは全く見ないものがスカイラインでした。あれも日本独特のクルマなんですね。なんか日本人とハワイの人の好みの違いが感じられました。

[質問]

ハワイにもたくさんのクルマが走っています。ではハワイのクルマの色はどんな色が多いでしょうか。

予想

- ア 白や黒などのモノトーン
- イ 赤，青，黄などの原色系
- ウ そのほか

個人主義だから？

クルマの色についていえば、これはなんともいえません。というのも、実に色鮮やかにいろんな色のクルマがあるので。そして、ほとんどの自家用車はメタリック塗装で、一口に「何色」とは表現できません。日本に帰ってきて驚いたことは、日本のクルマの色がほとんどモノトーンであること。白と黒ばかり。ハワイでは白のクルマもあまり見かけませんし、黒のクルマなんてまずありませんでした。

また日本に帰ってきて驚いたのは、日本のクルマはどれもみなとてもきれいだということ。ワックスがかかかっていてピカピカです。ハワイのクルマは、日本と比べるとなんだかどれも汚れて見えました。つまり日本人はクルマを大事にすることに価値を見いだしている訳なのでしょう。

[ 質問 ]

ハワイのレンタカー（アメリカ車でエコノミークラスの普通車セダン）に乗って日本車との設計思想の違いに驚いたことがいくつかありました。さてそれらはなんのでしょうか。

## 安全への配慮

まず驚いたのがシートベルトです。助手席のシートベルトは自動なのです。助手席に座ってドアを閉めると自動的にシートベルトが肩に掛かり、ドアを開けると、また自動的にシートベルトが外れる仕組みになっています。

また一番安いエコノミークラスにも関わらずエアバックが付いていました（当時の日本車では高級車のみを設定）し、よく見るとダッシュボードがフワフワの柔らかい素材でできているのです。シートベルトのことといい安全性の重視には驚きました。

あとどうしたわけか雪の降らないハワイなのに、タイヤがオールシーズンタイヤでした。これも安全のため？

## 鍵が抜けない

日本車でも走行中に鍵が抜けないような配慮をしているクルマがほとんどですが、ハワイの車はそのどの形式とも違いどうやっても鍵が抜けないので困ってしまいました。

あとから分かったのですが、鍵のまわりの部分を鍵と一緒に回さないと抜けないようになっていたのです。

## ガソリンは盗まれない？

とても驚いたことには、ハワイのクルマは、どのクルマも給油口に鍵がついていなくて、簡単に手で開けることができるのです。駐車場にあるクルマはみんなそうでした。

きっと日本と違ってガソリンなどを盗む人は誰もいないのでしょう。ハワイでのガソリンの値段は1リットル30円くら



いでした。

ついでにガソリンは、店と入れ方によってずいぶんと値段が違います。「FULL SERVE」というのが日本と同じ方法（運転者は何もしない）でリッター40円ぐらい。「SELF SERVE」というのが、自分で給油する方法で、リッター30円ぐらい。この方法は安いけど、ガソリンの臭いが強烈で嫌になります。たいていのスタンドは食料品店が一緒にあるのでおもしろいです。

### 速度計

速度計は mile/h と Km/h の両方で表示されていました。しかし距離計は MILE のみ。そしておもしろいのは、速度の表示が 15,25,35,45,55,65・・・と一桁目が5なのです。もっとも速度規制も 15,35,55 などとやはり一桁目が5なのですが。

### 空調

あとエアコンがおもしろくて、上の吹き出し口と下の吹き出し口から交互に風を出すのです。これは、あまりうれしい機能ではありませんでしたが。

### [ 質問 ]

ハワイ島には、公共の交通機関がありません。クルマは本当に足代わりなのです。そのためか、道路事情には驚いたことがいくつかありました。どんなことだと思いますか。

## 道の作り方

ハワイ島の道路は、時速 55 マイルまで出せるハイウェイ（人も歩く。もちろん無料）とそうでない道に大きく二つに分けることができます。日本のハイウェイというのは、大変立派ですが、ハワイのハイウェイは普通の道です。しかも、日本と違って、照明も町の真ん中しか有りません。そのため夜は、大変暗いので、道のセンターラインと路側のラインに反射器がほとんどの道に埋め込まれています。それで、そのラインをタイヤがまたぐと、かなりの衝撃があります。つまり道路の真ん中を走らなければならないので、最初の頃は大変緊張しました。

またハワイの道は、地形そのままに作っています。地形を崩したり埋め立てたりして作っている様子は、ほとんど見られず、地形の上にそのまま舗装をのつけたという感じでアップダウンやカーブが地形によっては、大変多いです。トンネルもありません。また何年か前の溶岩で埋められた道がそのまま放置されていました。

## 親切な標識

日本の標識というのはパズルのようで、意味を分からない人には理解に苦しむものですが、ハワイの標識は、全て大きく文字による説明が付いていました。

SPEED LIMIT55, STOP, DO NOT ENTER, SLOW DOWN などなど・・・。そのため標識の意味が簡単に理解できました。

一番助かったのは、追い越し禁止の表示です。日本の「はみ出し禁止」の黄色いラインは、あまり妥当性があるように

は思えません。見通しの良い直線道路が追い越し禁止で、見通しの悪いブラインドカーブが追い越し禁止ではないというのもしょっちゅうです。でも、ハワイでは違います。実に細かく、二つの表示を分けているのです。道路の直線部分は、「PASS CAREFULLY」。見通しの悪いカーブは全て「DO NOT PASS」。また上り坂は見通しが悪いので追い越し禁止ですが、下りは見通しがよいのでOKとなっていました。だから、表示を見ているだけで安心してドライブすることかできたのです。

また広告看板がないのにも驚きました。全くないのです。そのかわり観光案内の看板は、至る所にありました。そのため大変快適にドライブできたのです。

#### [ 質問 ]

日本では路肩に停車するときに、よく左ウィンカーを点けっぱなしにしたり、ハザードを点灯させたりします。

それでハワイではどうだったでしょうか。

#### 予想

- ア 日本と同じようにウィンカーを出したまま
- イ きちんとハザード
- ウ 「停車表示器」を使っている
- エ 何も信号は出さない

## 運転マナー

驚いたのは、ハワイのクルマは路肩に駐停車するときは、ウィンカーはもとよりハザードも点けていません。ただそのまま停まるのです。でも、考えてみると、「路肩に停車するときは、ウィンカーやハザードを出していること」なんていう法令は日本にもないので。日本人はなぜこういう習慣が身に付いたのでしょうか。

あと直線道路のほとんどが追い越し可なのですが、制限速度を遵守して走る（警官が抜き出しの銃を持っているのが怖い）僕の車を追い越していったのは、滞在した1週間の間にたった一台だけでした。

あと、ハワイには駐車場がたくさんあるためか、道が狭いためか、マナーがよいのか、違法駐車は全く見かけませんでした。みんな、きちんと駐車場に停めます。さらにおもしろいのは、日本人は、駐車場に停めるときに、バックで入れる人が多いのですが、この人は、ほとんど全員が頭からつっこんで停めていました。

さらに駐車場には、「bump」と呼ばれる隆起があちこちに作られていて、物理的に車がスピードを出せないようになっています。

[ 質問 ]

ハワイのキラウエア火山は現在も活動を続けていて、溶岩が林を燃やしたり、有毒ガスが発生したりしています。そういうところでは、どんな安全対策が取られていると思いますか。

予想

- ア 立ち入り禁止にしている
- イ 監督官がついて安全を守っている
- ウ 危険を知らせる看板が立っているだけ
- エ 何も対策はしていない

安全は自分で守るもの

ハワイでは、柵のようなものを見るのがほとんどありません。火口や断崖絶壁などにも柵はなく、ただ「命に関わります。注意」「あなた自身の責任で」という看板が立っているだけです。

ですから、火口にはその看板を越えて多くの見物人が入っていました。僕は、火山ガスのため苦しくてしょうがないため断念しました。

Aloha aina

FM 放送がたくさんチャンネルで流されていましたが、流れる曲は、どのチャンネルでもみんなフォークソングのような歌ばかりで、とてもリラックスできます。日本に帰ってきて、ラジオを聞いたら、日本の歌がやたらやかましいのに驚いてしまいました。

食事の味は、はっきりいって僕の好みではありませんでした。ハンバーガーやコーラなどは、日本で売っているものの2倍ぐらいのサイズがありますが、値段は日本よりも安いです。ただ、食材はとてもいいものがそろっています。スーパーでは、マグロのトロが200円ぐらいで売っていて、これが最高でした。またステーキもおいしかったです（日本で売っていないステーキ用スパイスがとてもおいしい）。「知らない野菜などが売っているか」と期待していったのですが、みんな見たことのあるものばかりでした。

水道水は飲めないなので、みんなスーパーから飲料水を買ってきます。スーパーには、飲料水の自動販売機もありました。

レジでは、ベルトコンベアの上に買いたいものを自分で並べます。また買い物をしてもらっても袋はくれません。頼むてもらえますが、紙袋は無料で、ポリ袋は有料でした。

アパートでは、食べ残しなどを粉砕する機械が排水口についていて、とても処理が便利でした。

人々はとてもおおらか。アパートを出るときも、レンタカーを返すときも、無人の机などにただ鍵をおいていくだけでした。

そして、ハワイの旗は、多くの建物にひるがえっていました。土産物屋には、いろんなサイズのハワイの旗が売っていました。